

「富士見の歴史講座」歴史散歩寄稿

～振武軍と飯能戦争のゆかりの地を訪ねる～

寄稿者： K. K

幕末の歴史を訪ねて～本年度の講座から～

今期の歴史講座で、幕末期の武士による騒動、戦いについて学びました。

私たちが住む富士見や県内の各地でも記録されている。

当時の名主、商家などに強訴、軍資金を出させた騒動が富士見にも及び、横田家の記録にあります。南畑の大沢家の門に刀傷が残り、往時の記憶をとどめています。

官軍と戦い、幕藩体制を維持させたい指導者、武士と付和雷同、食い詰め者が何百人もの一団となっていたそうです。



中に、淡沢栄一の義弟で一橋家に仕えていた淡沢平九郎がいました。

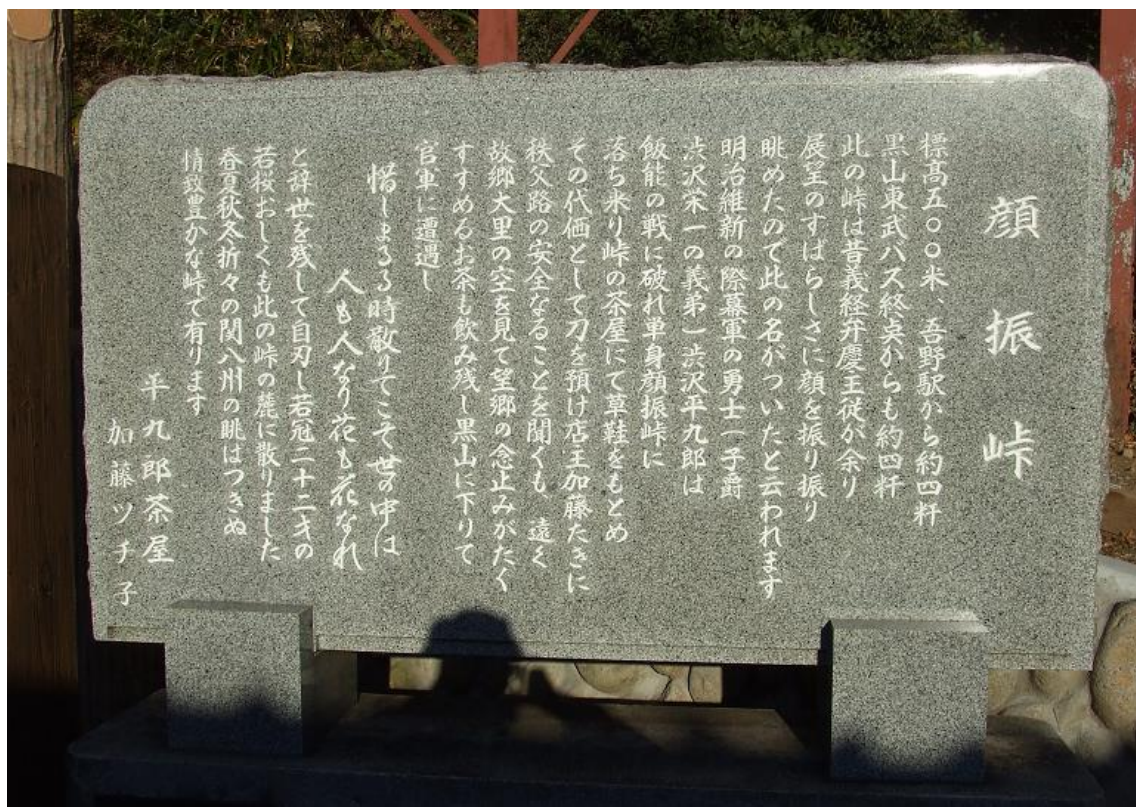
講義の中で語られた、非業の最期を遂げた平九郎の話に俄然、興味がわきました。その後、五稜郭まで逃げのび、さらに戦った榎本武揚と、はぐれたのも哀れです。

官軍に包囲され自決したのは黒山で、そこへ至る前に休息を取った茶屋が、現在も残っていると聞きました。(黒山側に淡沢栄一が建てた碑もあります。)

12月のある日、電車で行ってみました。
川越線八王子行き東飯能経由、西武秩父線吾野駅まで約75分
下車して顔振峠を目指して1時間半ぐらいで平九郎茶屋に到着。

茶屋は、今では往時のように食べ物は出さず、自販機で飲み物が買えるだけ
ですが、当主に、話だけは聞きました。その時、平九郎に会って言葉を交わし
た祖母からは何度も話を、孫の現当主は聞いていたそうです。
祖母は、よほど平九郎の先行きが心配だったようで、「何度も忠告したのに、実
家のある方に行ってしまった」と惜しんでいた。
そして、今も茶屋の天井近くに、平九郎の写真が飾られていた。
勿論、その写真を撮らせてもらいました。

なかなかの偉丈夫ぶりで、生きていれば、新政府の人材として活かされ、大
成したのではと残念な思いを胸に帰路につきました。





吾野駅から顔振峠への道は、昔の面影を偲ばせ、近くに山並みを見せ、静けさの中にありました。陽気の良い春先にハイキングがてら、お出かけください。